

新城杏所宗匠歓迎句會

(主催 潮聲會)

七月六日田町高久病院内木更荘にて、開催
出席者は香海、萬袋、香雨、何鳴、閑月、
北窓、曉霞、松堂、千里、

潮聲 (第二十一集)

紫陽花 (三點句)
風そよ吹けは紫陽花のたいし
紫陽花に雨はほれけり真昼中
紫陽花の縁に佇ひし省みる
(二點句以下)

紫陽花 (三點句)
藍龍せし四池の花に微風あり
ほの白く紫陽花間に揺れて居り
紫陽花のよきよの色に今日の花
紫陽花の鏡りて若きよさりりり
紫陽花に蜘蛛の網ひの光りりり
庭隅に大徳まるふ池かな
紫陽花の板垣越しに咲きにけり
紫陽花や心字の池に水鏡
紫陽花に紫の真珠さすきりり
紫陽花に雨催さす若にけり
紫陽花や宿の庭下歌かろくく
紫陽花に紫陽花にて玉若めく
團扇 (四點句)

團扇 (四點句)
團扇手に語る 檜葉の垣低く
(三點句以下)

馬宿に骨のらはばり 團扇
(二點句以下)

右左あをく團扇や姉妹
さし出せば繪を先に見
夏此のほつれもなるかな
夕月や團扇の音の静かな
寝てても團扇離さぬ子供かな
水色の模様涼しき團扇かな
團扇七輪の火はばらばら
團扇持つ手のほろりしよ欄による
はにかむて睡をたこす團扇
色草の團扇に浴き 香りにけり
團扇へ夜の街を行く手に動く
掃き出して 扇の團扇かな
同者衆の腰に名入の團扇哉
伏せし虫の陰ひひの扇扇哉
團扇扇して風の月をほのめ哉

席上吟

夜店 (三點句)

名も知らぬ虫らついで夜店の燈
さむい夜店にうか立ちにけりりりり
(二點句以下)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

夜店 (三點句)

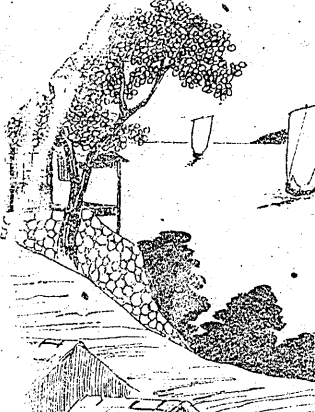
休刊大目録
定価 一月六千五百円
廣告料 一行十行毎百字五円
印刷代 別冊別冊別冊
行所 新報社
三二三三屋

鉢提げて夜店戻りの二人哉
買戻る品とは見えぬ夜店かな
ひやかしの買ひかよりの夜店市
戻けるはと路はありける夜店かな
たゞさやに人の集る町の背
鉢なから夜店にばらの露光る
買戻るは涼み場所なり夜店の店
客寄せや節たもしく夜店人
ひやかしの客のみるゝ夜店かな
有象無象素多き夜店かな
蛇いだらうとみ見る夜店かな
若夫婦人目をひきて夜店かな

明日 六月 七
吉凶 五月 十
紫陽花 順を守れば天
紫の官職は自から授かるべし
二黒の功名榮達期
してまふし開店名弘就職
皆吉三碧の人 自東せよ
れば凶事に舞舞れて苦むこ
とあり 四緑の人 和合
かくとさば破滅を來たす洋
意たり 五黄の人 高
止の時 八方より魔の誘ひ
にあふべし 六白の人
々の汗より生れし利得の理
はる 大吉日 七赤の人
不遇は自ら招くこと多し油
跡は大敵しれ 八白の人
刻々と進展しゆく 幸運日新
規事業尤もよし 九紫の人
凶運れども勉め次第にて
瀕にとり付べし

「大丈夫、御志は忘れぬ、
ひこ九郎は、寂しく微笑
しました。」
「では、くれぐれも身を
大切に」
わすかに心後に残した
から、ひこ九郎は、決然北
への旅に足をふみ出しまし
なりました。一犬の虚にも足
りからでした。

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」
南都にしても、松前にし
ても誰一人志を語るに足
るものには出遭ひません
たが、しかし、彼はひるみ
ませんでした、わずかな手
巻を求めて、武士の一人に
近づくと、京都御所の如何
に頼勢にあるかを語りまし
た。さうして勤王の志情を
袖えつけようと努力したの
が、松前の果て、ひこ
九郎は、また意外な事實を
耳にしました、それはわか
らなう、さうした尊王の傾向
して自殺しはしまいかとい
ふことを怖れたのでした。



「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

「南都から津軽へ、こゝか
に舟に乗って、松前まで、
その足跡をよめました。
ひこ九郎の名は幕府に
つて鬼門でしたが、それだ
り、同志の間には信用があ
りました。」

